

授業科目	漢方医療設計学特論 Kampo Medicine			担当教員	山口 拓、宇都 拓洋、西奥 剛、 早川 正信、神田 紘介、太田 智絵、 縄田 陽子、川寄 達也、大久保 伸哉		
展開方法	講義	単位数	2 単位	開講年次・時期	1-3 年／前期あ るいは後期	必修・選択	選択
授業のねらい							
1) 漢方の特徴、診察法、証のとらえ方を概説できる。 2) 漢方薬・生薬（天然薬物）の薬理学的理解を高める。 3) 生薬生産と流通について理解する。 4) 生薬の同定と品質評価の重要性を理解する。 5) 生薬由来の生物活性物質の構造と作用を理解する。 6) 天然生物活性物質の利用と創薬の流れを理解する。							
観点	学生の授業における到達目標			評価手段・方法	評価比率		
関心・意欲 ・態度	漢方薬・生薬に関心を持ち、薬剤師業務において実践する意欲を喚起できる。			授業態度・授業への取組	10%		
思考・判断	(1)漢方薬・生薬が医療の場で重要な位置を占めつつあることを考察できる。(2)漢方薬・生薬が創薬の資となることを考察できる。			レポートもしくは授業での討論・発表	30%		
技能・表現	漢方薬・生薬について、実際の臨床データや論文等の資料に基づいて、自らの意見を表現できる技能を高められる。			レポートもしくは授業での討論・発表	30%		
知識・理解	(1)漢方の基礎理論が理解できる。(2)漢方薬を薬理学的に理解できる。(3)漢方薬・生薬の活性成分と品質評価が理解できる。(4)天然薬物と創薬の連関を理解できる。			レポートもしくは授業での討論・発表	30%		
出席						受験要件	
合計						100%	
評価基準および評価手段・方法の補足説明							
レポートもしくは授業での討論・発表：30%(思考・判断)、30% (技能・表現)、30% (知識・理解) および授業態度・授業への取組：10% (関心・意欲・態度) で総合的に評価・判定する。							
授業の概要							
<p>伝統医学の中には漢方医学、アユルベーダ医学、ユナニー医学等があるが、もっとも論理的、系統的、体型的に集大成され、今なお進化し続けているのが漢方医学である。漢方医学は、個々人の「証」に照らして処方が組まれることから、現在進められているテーラーメイド医療の最たるものと言える。また、漢方では「未病を治す」という語句に見られるように、漢方薬や生薬が免疫を高め、発病の予防効果が実証された例も多く、広く予防医学に貢献可能な事が明らかとなっている。また、現在は「証」を超えて臨床に応用されている処方も少なくなく、「大建中湯」が外科領域において、「半夏瀉心湯」が癌治療領域において広く用いられているなど、新しい展開が進展している。漢方薬を構成する生薬は天産物であるがために、品質のばらつきがあり、漢方薬の効力の不均一性が危惧されている。このためには生薬の品質評価が必須不可欠であり、高感度・簡便・再現性大な分析法を導入する必要がある。また、何千年と継承され臨床的に安全性が確かめられている漢方薬の活性成分の探索は、新たな医薬品の創製につながるものである。以上のような状況に鑑み、「漢方医療設計学特論」において概略以下の大学院講義を開講し、現在強く求められている伝統医薬ひいては漢方薬による的確な臨床応用に貢献出来る人材育成に資することを主目的としている。</p>							
教科書・参考書							
参考書：必要に応じ資料を配布							
授業外における学修及び学生に期待すること							
当該授業科目に関連する和文および英文の文献を読む習慣をつけること。							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	漢方の基礎理論	漢方の歴史、特徴、診察法、証のとらえ方について理解する（宇都）	予習：配付資料調査 復習：当該授業内容の復習
2	漢方薬と現代医薬	漢方薬と現代医薬の相加・相乗作用、中西和合の流れ、未病医学に寄与する漢方薬・生薬等を理解する（宇都）	予習：論文調査 復習：当該授業内容の復習
3	漢方薬の作用メカニズム	漢方薬の作用メカニズムを薬理的に理解する（山口拓）	予習：論文調査 復習：当該授業内容の復習
4	精神神経系と漢方薬 その I	精神疾患に適応がある漢方薬を理解する（山口拓）	予習：論文調査 復習：当該授業内容の復習
5	精神神経系と漢方薬 その II	神経疾患に適応がある漢方薬を理解する（縄田）	予習：論文調査 復習：当該授業内容の復習
6	末梢疾患と漢方薬	末梢疾患に適応がある漢方薬を理解する（西奥）	予習：論文調査 復習：当該授業内容の復習
7	抗悪性腫瘍薬の副作用における漢方薬	がん治療の支持療法に使用される漢方薬を理解する（神田）	予習：論文調査 復習：当該授業内容の復習
8	膜輸送体と漢方薬	漢方薬の薬効・薬物相互作用の標的となる膜輸送体を理解する（川寄）	予習：論文調査 復習：当該授業内容の復習
9	薬局で汎用処方される漢方薬	臨床において使用される漢方薬について理解する（早川）	予習：論文調査 復習：当該授業内容の復習
10	生薬の生産・流通・品質評価	生薬の生産、流通、品質評価等を理解する（宇都）	予習：配付プリント 復習：当該授業内容の復習
11	天然物と創薬	創薬における天然物研究の位置づけを理解し、最新の研究事例を学ぶ（宇都）	予習：配付プリント 復習：当該授業内容の復習
12	天然活性成分の探索	天然物からの活性成分の探索方法を理解し、その研究事例を学ぶ（大久保）	予習：論文調査 復習：当該授業内容の復習
13	天然活性成分の単離同定	漢方薬配合生薬の活性成分の単離、同定を理解する（太田智）	予習：論文調査 復習：当該授業内容の復習
14	生薬の活性成分 その I	漢方薬配合生薬の主活性成分を理解する（太田智）	予習：論文調査 復習：当該授業内容の復習
15	生薬の活性成分 その II	漢方薬配合生薬の主活性成分を理解する（太田智）	予習：論文調査 復習：当該授業内容の復習